

左頁写真上——暮なお暗い不動滝  
左頁写真中——屏風岩  
左頁写真下——二岐ダム



不動滝下流で出会った釣り人

再び市野へ向けて下山していくと、山道にはヤマツツジやタニウツギ、ホオノキなど樹の花が盛りだった。下を見ればシャガやカキドオシなど野の花に混じり、園芸植物のカザグルマが咲いていたりして、ここが人里だった時代が偲ばれるのだつた。

## 名瀑の不動滝

市野には最多一二戸が住み、すぐ傍らにあら鹿島神社の南沢辺には大谷地方面から引いた堰堀があつて、その跡も田形も見えたと『村誌』にはあるが、今現在、住するのは一戸のみという。神社へ至る道筋には草々が繁茂し、無人の家屋の窓にはトタンが打ちつけてあつて、廃屋の朽ちるがままになるのであろうが、唐澤さんのもらした「淋しいことです」という言葉を、どのように解釈したものだろう。今はまだ、とても清潔な集落の佇<sup>たたずま</sup>いである。

この市野には、前述もしたが柳津町軽井沢に抜ける道が通っている。かつては大谷地から山越えのルートだったのかもしれないが、いずれ元和元年（一六一五）に開発された軽井沢銀山に至る道で、『新編会津風土記』には「昔繁栄の時は、本地および逆瀬川等の駅所にて往来も多かりし」とある。この道はそのまま



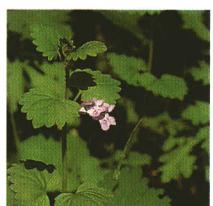
タニウツギ



ホオノキ



シャガ



カキドオシ



キンポウゲ



カザグルマ



写真上——踏み跡も消えつつある鹿島神社  
写真下——市野の無人の家屋



武者などの谷地開墾による定住部落ではないかといわわれる不動滝へ寄り道することにした。

私たちはここで、上平へと下る前に、名瀑クマの出没を注意され、やたら手を叩きつづけを廻行すること約一〇分、大谷地渓谷最大

▲  
SPECIAL EDITION  
**3 佐賀瀬川紀行**  
▼